さんけん新聞

発　行
特例認定
ＮＰＯ法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木 1734
☎090・
3421・3046
◇
https://sanken-hiroshima.org/

無印良品と協業事業を協議
困りごと解決交流プログラム提案

二〇一九年から協業事業を実施している無印良品と一月二十六日、新年度事業について協議した。昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により、試行イベントを除き全事業が中止になったが、コロナ禍でも実施できる方法を探る方向で合意した。無印良品のＷｅｂメディア「ローカルニッポン」の取材を受けた。

試行イベントで魚取りを体験する無印良品の女性社員　（2020年8月25日）

無印良品からは山口恵介広島パルコ店長とイベント担当者二人、さんけんからは本宮炎理事長と本宮宏美事務局長が出席した。

さんけんからは一月の大雪の実情を説明し、雪かきボランティアなど、高齢化が進む中、都市の人が楽しみながら地域の困りごとを解決する交流型プログラムを提案した。山口店長は「社会に貢献したいというニーズを満たすのでは」と期待を寄せた。

オンラインによる苔テラリウムワークショップを決めた。予め無印良品でキットを購入し、店舗内から本宮理事長が指導して、参加者は自宅で苔テラリウムを作成する企画。

「ローカルニッポン」は、地域活動や人々の魅力を写真と記事で紹介している。担当のカゼミ佳織さんは「話を聞いてますます三段峡やさんけんを皆さんに知ってほしくなった」と話した。記事はさんけん会員の中本祥二さんが執筆する。

三段峡周辺集落活性化へ事業申請
団体、事業者と協力して地域振興

新年度の事業申請へ向けた安芸太田町地域づくり課とさんけんの協議が一月八日と十五日の両日、開かれた。さんけんが中心になって、総務省の過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業に申請する。対象集落は三段峡正面口の柴木と梶ノ木、板ケ谷、川手の旧四合小学校区。

三段峡ホテル前の売店改修や交流型地域の困りごと解決事業、町内の団体や事業者と協力して実施する耕作放棄地対策、観光プロモーションなどで地域振興を目指す。地域おこし協力隊の受け入れも検討する。事業総額は約二千万円。

本宮宏美事務局長は「三段峡を百年先へ残すには、周辺集落の活性化が欠かせない。さんけんが地域に受け入れられ、貢献する取り組みにしたい」と、同事業を位置付ける。

「楽しい100人」無観客中継

安芸太田町で活躍したり、ゆかりがあったりする人の話を聞く「あきおおたの楽しい１００人」が一月二十四日、新型コロナウイルス感染防止のため、井仁の棚田カフェ「イニミニマニモ」からオンラインで中継された。無観客は二回目。三十人がライブ視聴し、動画は四三〇回再生されている（二月六日現在）。

出演は井仁の町職員小笠原文麿さん、同町に嫁いだ小田理恵さん、地域おこし協力隊の梶原仁正貴さん。

風力発電縦覧開始　二月二十日に学習会開催

大規模風力発電を計画している広島西ウインドファーム建設事業（仮称）の環境影響評価方法書の縦覧が一月二十六日、始まった。二月二十六日まで、意見書提出期限は三月十一日。

地域説明会は二月中旬まで建設予定地を含む六か所で開かれる。風力発電施設建設問題に取り組む三団体は共催で二月二十日、説明会を受けて学習会を開く。

事業者によると環境配慮書への三〇七通の意見書は、異例の多さだったという。本宮炎理事長は「多くの声は事業者と対等に話せる力になる」と強調。「考える会」は方法書に対し、一〇〇〇通の意見書を目指す。

★お知らせ　さんけん新聞を編集していたパソコンがダウンしたため、機種を切り替えました。題字や「南峰と歩く」など一部の書体が変更になっています。

一口メモ

▼季節の指標

今年は百二十四年ぶりに節分が一日早い二月二日になった。立春は三日。一月には長淵橋の欄干が隠れるほどの大雪となり、長淵も結氷して厳しくもあるが、美しい景色だった。雪割草の開花は春の訪れの指標の一つ。昨年は二月上旬だったが通常は三月の雪の中。今年はいつなのか注視。

南峰と歩く ㊷　鴛鴦淵（おしどりぶち）
今は見られない「数十番の群集」

霧ケ瀬橋を渡って川中の「立石」を過ぎると鴛鴦淵に着く。熊南峰は「両岸の樹枝の低く垂れた間に、緑を溶かしたような色を湛えている長い淵」で、「毎年十月になると数十番（つがい）の鴛鴦が群集」する、と記す。鮮やかな冬羽のオシドリが淵に溢れる光景は、今は見られない。人工の貯水池などへ移ったと思われる。

■保存会設立支える

この辺りは八幡村に属した。霧ケ瀬より下流は戸河内村である。のちに三段峡が名勝に指定される基となる史蹟名勝天然紀念物保存法が、一九一九年に公布された。八幡村は翌年、「八幡村史蹟名勝天然紀念物保存会」を設立した。委員に樽床の後藤吾妻や前号で触れた野田不二仁の名がある。

保存会は山県郡役所の要請で設置された。証拠はないが裏に、「山県郡写真帳」の制作を郡役所から頼まれ、人脈を築いていた南峰の動きが見える。

■滲む三段峡への愛

郡制は二三年に廃止されたが、残務処理のため二六年まで存続した。二五年ごろの探勝路建設計画の際、郡役所から戸河内村へ出された通牒の内容から、いかにも南峰らしい三段峡愛が読める。村の資料や計画の多くを作った南峰は、郡の権限が消える最後の機会をもつかんで三段峡をプロデュースした。（松尾　俊孝）

この人
研修会・運営に積極参加
小田　理恵さん

岡山の住宅街で育ったころから、田舎にあこがれていた。2010年、夫の実家がある安芸太田町へ。子供も大人も自然の中で楽しむ子育てサークル「山のくらしえん　わはは」を主宰している。

さんけん主催の研修会に参加したり、運営スタッフに加わったりしている。さんけんを「ちょっと変わったと思わせる面白い人の集まり」と表現する。６年前、３歳の娘と水梨口まで歩いたのが最初。三段峡は「自然の規模が大きく迫力満点。魅力は未知なるところ、神秘的なところ」。きれいな自然を保ち続けて欲しい。（宏）